絶交の先

居間。母と娘がくつろいでいる。
玄関から声。

息子　ただいま～。
娘　おかえり。遅かったね。

息子、玄関方向から入ってくる。二人を見て、驚く。もう一回見て。

息子　おお。なんか、いろいろ、やることあってさ…　けっこう、時間取られて…　銀行とか…
娘　ああ、そっか。　お疲れ様だね。ありがとね、にぃにぃ。
息子　おお。
娘　お茶、飲む？
息子　え？　あ、うん。
娘　ちょっと待ってて。入れてくる。コーヒー？
息子　おお。
娘　了解。

娘、台所へ。
息子、とりあえず、机にすわる。
息子、母のほうをじっと見る。
母、無視している。
息子。しばらくためらって。

息子　え？
母　…。
息子　いや、え？
母　…。
息子　いや、まじで？　なによ？
母　…。

娘、台所からコーヒーカップを持って出て来る。

娘　なに？　なんか言った？　はい。
息子　いや、はい、じゃなくて。
娘　え？　だって、コーヒーって、は？　じゃないの？
息子　いや、コーヒーでいいんだけど、じゃなくて。
娘　なに。
息子　この人。

娘　ああ。

息子　だよな？　やっぱりだよな？　え？　なんでよ？

娘　なんか、言うことあるんじゃないかって。

息子　は？

娘　だから、にいにいが言うことあるんじゃないかって。

母、娘に耳打ち。

娘　言いたいことあるなら、聞いてやるから、って。

息子　言いたいことって？

母、娘に耳打ち。

娘　知らない、自分で考えろって。

息子　なに。なんで俺に直接言わないの。

母、娘に耳打ち。

娘　絶交中だからって。

息子　は？

娘　にいにい、一昨日、喧嘩したんだって？

息子　あ？

娘　絶交中だから、喋らないんだって。

息子　子供かよ。

母、娘に耳打ち。

娘　お前がな、私は母親だよ、って。

息子　意味わかんないから。ってか、話せば？　話せるんなら直接。

母、娘に耳打ち。

娘　謝れ、って。

息子　はあ？

娘　謝ったら、話すって。

息子　ああ、もう、めんどくせえなあ。いいよ、じゃあ、そのままで。

娘　なんでよ。謝れば？　タイムリミットあるらしいよ。

息子　は？

娘　時間、あるんだって。

息子　時間？

娘　うん。
息子　なんの？
娘　そりゃ、このままここにいるわけにはいかないんじゃない？
息子　いや、いま、ここにいるのもおかしいから。
娘　まあ、ねぇ。
息子　おまえ、受け入れすぎだろ。もっと、なんか、こう…　おかしいだろ。
娘　だって、母さんの娘だもん。
息子　だからって。

母、娘に耳打ち。

娘　無視するな、って。
息子　だから、直接話せよ。
娘　だから、謝っちゃいなよ。
息子　ああ、もう、まじでめんどくせえなあ、はいはい、すいませんでした。

母、娘に耳打ち。

娘　誠意が感じられないって。
息子　時間ないんだろ。

母、娘、二人で息子をじっと見る。

息子　ああ、もう。ごめん。一昨日は、まじですいませんでした。反省してます。
母　許す。
息子　どうもありがとうございます。
母　ふざけてる？
息子　ふざけてない。
母　ふざけてない？
息子　ふざけてない。
母　そっか。よかった。じゃ、いくね。
息子　え？
母　いや、だって、謝りたいんじゃないかと思ったからさ。
娘　それだけ？
息子　それだけ？
母　それだけって。そんなのが一生の悔いになっちゃったらかわいそうだし。
息子　いやいや。
母　ええ？　そんなに心残りじゃなかったってこと？
息子　…。
母　なんだよ。

息子　なんだよってなんだよ。
母　だってさ。母さんはあんたのことが心配でこうやってさ。
息子　余計なお世話です。
母　…、そっか。
娘　お兄ちゃん、言い方。
母　いいよ。
娘　だって、母さん。
母　いいの。で？　あんたは？　なんか言いたいことある？
娘　いいの？　言って？
母　いいよ。言っちゃいなよ。
娘　ないよ。　まあ、強いて言うなら、
母　なに？
娘　びっくりしたよ。
母　うん。
娘　なんでよ。
母　ごめん。
娘　母さんが謝ることじゃない。
母　うん、まあ、そうなんだけど。
娘　大丈夫そう？
母　なにが？
娘　そっち。
母　ああ、うん。多分。なんか、わりとなんともない。
娘　そっか。
母　うん。
息子　じいちゃん、ばあちゃん元気だった？
母　まだ会ってない。
息子　へえ、そうなんだ。
母　うん。ってか元気っておかしくない？
息子　なんか、なんていうか、どういう感じなの？そっち。
母　ううーん、なんていうか、普通？
息子　普通ってなんだよ。
母　だって。
息子　そっか。ま、母ちゃんだからな。
母　うん。日常、的な。あんまり変わらん、みたいな。
娘　そっか。
母　うん。
息子　会えたの？
母　誰？
息子　父ちゃん？
母　…。

息子　は？　会ってないの？　あ、じいちゃんとかと一緒か。もっとずっと先にいるのか。
母　…。
息子　自分だけ年取ってるから会いたくないとか？　そんなのいいだろ。会いたいんじゃないの？
母　ごめん。
息子　なに？
母　死んでない。
息子　娘　は？
母　あの人は、あんたたちの父親は、死んでない。
息子　娘　はあ？
母　ごめん。
息子　は？　なに？　どういうこと？
母　ごめん。
娘　いや、母さん。ごめんじゃなくて。
母　うん。
娘　うんじゃなくて。
母　昨日の夜さ、夢枕っての？に立っておいたから、多分、すぐ連絡くると思う。
息子　えっと…　ごめん、ちょっと待って。てことはなに？　死んだって言われてた父親が、実は、生きているってこと？
母　そうそう。
娘　えっと。ってことは、死別じゃなくて、離婚？
母　あはははは。
息子　え？　そうなの？　あ、そうなるのか。
娘　そうだよ、そうなるんだよ。
母　そうなんだよねえ。母さん、バツイチ。
息子　いや、死別でもバツイチだけど。
母　え？　そうなの？　まじで？
娘　え？　母さん、死別だとバツないって思ってた？　もしかして？
母　うん。
息子　めでてーな。
娘　うん。
母　えー、そうなんだー。ショックー。ま、もうどうでもいいけど。と、いうわけなので、多分、連絡くると思うから、まあ、適当に。向こう、別に家族いるから、一緒にってのは無理かもしれないんだけど。
息子　娘　ええ？
母　でも、ほら、養育費っての？　それ、いらないっていって、もらってないから、私に何かあったら二人のことよろしく、って言ってあったから。
息子　別で家庭持ってる奴が、そんな昔の約束守ると思ってんの？　現に今まで俺ら、何にも知らなかったってことは、向こうからなんの接触もなかったってことだろ？　完全に邪魔者だろ、おれら。
母　離婚の原因がさ。
娘　うん。
母　母さんのこの能力っていうの？　でさ。

息子　は？
母　だから、幽霊が見えたり、人の病気の原因が見えたりする力みたいな？
娘　うん。
息子　それで、なんで自分のことは見えないかね。
母　だって、病気じゃないし。それに、自分のことって見えないもんなの。あ、いやだから、あの人、この母さんの力？がとっても怖かったみたいでね。最初のうちは全然気にしてない風だったけど、二人が生まれて、二人とも壁に向かって笑ってたり、話しかけてたりしてるの見て、で、それを私が全然気にしてないのを見て、もう、本当にやばい、って思ったみたいでね。
息子　はあ？
母　まあ、それで、これ以上お前たちと一緒にいたら、自分がおかしくなる、って言われて別れることになったんだけど。
娘　なにそれ。
母　うん、まあ、だから、死んだことにしたんだよね、自分の子供を怖いと思ってるような人、親と思いたくないかな、って。
息子　だよ。
母　でもね。二人のことお願いしたときに、もし、二人のことをないがしろにしたら、化けて出るからね、って、がっつりおどしておいたんだよね。
息子　おどすって。
母　だって、ねえ、言っても実の子だもん。可愛くないわけないと思うんだよねえ。それに怖がりだから、ちゃんと面倒は見てくれると思う。
娘　だからって。今まで何にもしてくれなかった人が、母さんに脅されたからっていきなり世話やきにきても困る。
母　うん。それもわかる。だから、あとはあんたたちで判断して。
息子　その前に、怖すぎて来ないかも、だしね。
母　それは、ないと思う。しっかり脅しておいたから、昨日も。
娘　リアルに怖いだろうなあ。
母　ちゃんと怖い風にやってきたから。ほら、母さんの事故、割と悲惨だったでしょ？　結構な感じだったでしょ？　まあ、葬式のときは、ちゃんとしてもらってたけどさ。あの、事故直後の一番やばいかっこで行ってきた。
息子　それで枕元に立ったの？　やべえな。でも、わかった。じゃあ、父親ってやつがきたら、二人でちゃんと話しして、で、援助してもらえるところはしてもらう。
母　うん。そうして。
娘　へえ。生きてるのか。父さん。写真一枚もないから、よっぽど別れが悲しかったのかな、って思ってたけど、まさか生きてたとはねえ。
母　ごめんね、今までうそついてて。
娘　いいけど。
息子　その、父親が、嫌いな母ちゃんの能力？　それのおかげで、こうして話せてるわけだし。
娘　うん。
母　ありがと。よし。じゃ、行くね。
息子　娘　…。

母　何よ。しんみりしないでよ。もう別れは終わってるでしょ、とっくに。
娘　母さん。
母　なに？
娘　元気で。
息子　いや、それおかしい。
母　あはは。いいねえ。あんたたちこそ、元気でね。
娘　うん。
息子　うん。
母　まあ、状況次第では、ときどき会いに来るから。
娘　うん。
息子　いや、それはあんまり。正月とか、シーミーとか、お盆だけでいいから。
母　それを時々というんじゃないの？
息子　そうか。
母　元気でね。こうなったのはとっても急だったしあんたたちとはまだまだ一緒にいたかったけど、ま、しょうがないわ。相手の人、恨んじゃダメよ。向こうもこれから私を殺してしまったっていう事実抱えたまま生きてかなきゃなんだから。あんたたちと一緒の時間、とっても楽しかった。あー。彼女とか彼氏とか、孫とか見たかったなあ。見られるのかなあ、あっちでも…ま、見られるか、来ればいいんだし。とにかく。私の子供に生まれてきてくれて、ありがとうね。楽しい人生、生きなさい。いつ、何が起こるかわからないんだから。なんちゃって、なんちゃって～。ちょっと母親らしいこと、言ってみた。じゃ、元気で。
息子　娘　…。

母、台所側に消える。

息子　なんでそっち？
母　（声だけ）あ、ヒヌカン、ちゃんとしといてよ。
娘　ああ、そういうこと。
息子　は？
娘　だって、うち、トートーメーないさ。母さん、ヒヌカン通して行き来するんじゃん？
息子　はあ…。
娘　にいにいと絶交してたの、よっぽど心残りだったんだね。
息子　…。
娘　よかったさ。
息子　ああ。

玄関チャイム。

娘　父さんかな？
息子　まさか。
娘　母さんに脅かされてたら速攻きそうじゃない？
息子　いや、母ちゃんがまじで事故直後の姿で立ってたら、しばらく立ち直れないんじゃないか？

俺らでもびびったし。しばらく夢にみそうさ。あれ？　もしかして、俺らの夢枕にも立ってるとか？

玄関チャイム

娘　　はーい。

娘、兄に、目配せしながら、玄関へ。

息子、台所を見て、玄関を見て、ため息。

息子　　で、誰？

息子、玄関へ向かう。

終わり